



緑の風



雪遊びに夢中

学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」
～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

民生児童委員の皆さんによる授業参観

いつも子どもたちの安全・安心を見守ってくださっている、地域の応援団による授業の参観と懇談会を実施しました。

横堀地域には、8名の民生児童委員と主任児童委員1名がいます。民生委員は、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々であり、「児童委員」を兼ねています。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や心配ごとなどの相談・支援等を行います。

授業を観ている皆さんは、とてもうれしそうな笑顔にあふれていました。懇談でも、「子どもたちの目がキラキラしていて、『笑顔で発信』がよく分かった。」「先生と子どもたちの信頼関係がよくて、安心して勉強している。」といった感想を届けてくださいました。

また、普段の集団登校の様子から、高学年の成長ぶりや、あいさつがよくなったことなども紹介していただきました。それから、登校班の人数への対応や、車での送迎ルール等については、課題もお話していただきましたので、学校としても保護者の皆様との話し合いを進めていきたいと考えています。



冬の横堀名物！ Yリーグ開幕



全校縦割りの「ひまわりグループ」を合体したチーム戦によるドッジボール大会です。「たいようくんタイム」をスタートに、3日間の昼休みに、体育委員会の主催で実施されました。上学年の部と下学年の部で分けて、熱戦が繰り広げられています。子どもたちが、自分たちで協力して、全校のみんなに「楽しい学校」の1ページを提供していく営みもだいぶ定着してきました。学校の行事は、先生方が計画して実施します。今、横堀小学校は、子どもたちが計画して、学校を動かして楽しんでいます。

今週24日の「たいようくんタイム」と25日の冬休みを迎える会の中では、コロナで自粛していた、『たいようくんステージ』が、遂に開催されます。

自分の好きなことや、できるようになったことなどを、みんなの前で“発信”するステージです。今回は先生方を含む7チームがエントリーしています。ピアノの演奏やダンス、けん玉や体操などの、さまざまなパフォーマンスが登場します。

「雪合戦」「雪だるまコンクール」「大なわとび大会」「百マス計算対決」「詩の暗唱発表会」・・・ネタはまだまだありそうです。そのうち、保護者の皆さんにも案内が届くかもしれません。そのときには、遠慮せずに出演してみてください。

たいようくんステージも開幕!

先生方の授業参観 Ⅱ



1 2月17日（木）2校時 あゆみ・生活単元
単元名「なかよし教室を楽しもう」（12 / 12時間）
指導者・小野 静枝先生



前日の「なかよし教室」での体験をまとめる、最終ゴールとなる時間の授業。子どもたちのワクワク感を考えると、翌日の提案授業がよいなという判断だったと思います。あくまでも、「2人の子どもにとって、よりよいのは・・・」という価値基準が、とても大事だと思います。
単元全体の学習計画と学びの跡が、いつでも確かめられる学習環境は、まさにユニバーサル・デザインのある教室です。

1 2月17日（木）5校時 5年生・理科
単元名「物のとけ方」（11 / 12時間）
指導者・佐々木淳美先生



全ての時間の教材研究をして、板書の構成もICTの活用も主体的に実践している淳美先生の授業は、いつも子どもたちに身に付けさせたい資質・能力が意識されているので、熱気にあふれています。その思いが、5年生になってからの学級の大きな成長につながっているのだと思います。
そして、きちんとすることばかりではなく、明るく元気の学級、子どもが動かす学級づくりにも心を向けているので、たいようくんの学校を支える、理想的な高学年の学級になっています。

1 2月18日（金）2校時 3年生・国語
題材名「3年峠とうげ」（4 / 7時間）
指導者・高橋英昭先生



授業中の英昭先生の丁寧で美しい言葉遣いは、学級の子どもたち一人一人にとっては、いつでも身近に適切な言語環境があるということ。きちんとした日本語で学んでいるということ。とっても素敵なことであり、心から尊敬しています。
そして、毎時間の教材がきちんと計画的に準備されて、書いた物は先生にちゃんと見てもらえる子どもたちだから、きちんとした学習が身に付くのは当たり前なことなのだと思います。廊下の習字を見ただけでも、この学級では指導が行き届いていることがよく分かります。

1 2月18日（金）3校時 3年生・体育
単元名「跳び箱名人になろう！」（8 / 10時間）
指導者・鈴木和彦先生



一人一人へのアドバイスや、グループへの声かけ。ずっと子どもたちをほめ続ける授業でした。これが素敵な“あったかワールド”なのだと思います。子どもたちの表情も、とても穏やかであり、体育の時間を楽しんでいることこそ、体育科の大事なことだと思われました。
また、この授業では、「やり方を教えて、できるようにして、子どもに任せられる場面」がたくさん見られました。どの教科の指導にも通じる、指導のスキルと流れが子どもたちの姿から伝わってきました。
当然ですが、改めて振り返りがあったら、学習カードを活用した体育の授業が当たり前に進められています。体育の専門家の授業らしい、とても勉強になる提案授業となりました。